

ザナミビル(リレンザ)静注投与(unlicensed preparation)による
新型インフルエンザ(H1N1)肺炎の治療(要約)

日本呼吸療法医学会
新型インフルエンザ委員会

H1N1 pneumonitis treated with intravenous zanamivir. Lancet 2009; 374: 1036.

ザナミビル(リレンザ)静注投与(unlicensed preparation)による新型インフルエンザ(H1N1)肺炎の治療

・22歳、女性。合併症としてHodgkin病に対する化学療法によるneutropenia。ICUにて管理。

Day 0：呼吸不全に対し非侵襲的人工呼吸(noninvasive ventilation: NIV)。オセルタミビル(タミフル)150mg/日にて開始。抗生素質としてmeropenem, teicoplanin, caspofungin使用。

Day 3：治療効果得られず。気管挿管人工呼吸へと移行。ハイドロコルチゾン投与開始。

Day 6：neutropeniaは改善。ザナミビルを人工呼吸器ネプライザーより投与開始(unlicensed route)、1回15mg、2~4回/日。

Day 10：BAL中にH1N1ウイルス量を高レベルに確認。

Day 13：オセルタミビル300mg/日にて再開。

Day 16：臨床所見、ウイルス学的所見の改善得られず。同日、ザナミビル(リレンザ)600mgを2回/日の静注投与にて開始(unlicensed preparation、グラクソ・smithkline・クライインより提供)、同時にメチルプレドニゾロン低用量にて開始。

Day 18：48時間以内の臨床症状の改善が認められた。

Day 21：BAL中のH1N1ウイルス量は著明に減少。人工呼吸器離脱。

Day 24：一般病棟へ転室。

注：正確な治療内容、各薬剤の投与内容等は原本(Lancet 2009; 374: 1036, [http://www.thelancet.com/journals/lancet/article/PIIS0140-6736\(09\)61528-2/fulltext](http://www.thelancet.com/journals/lancet/article/PIIS0140-6736(09)61528-2/fulltext))にて確認してください。